

平成 27 年度一関市放射線内部被ばく健康調査の結果について

標記結果について報告いたします。

【要旨】

一関市放射線内部被ばく健康調査の結果について、平成 27 年度の調査結果がまとまりました。

- ① 放射性ヨウ素：全員不検出
- ② 放射性セシウム：全員不検出
- ③ 放射性カリウム：平均的な食生活における摂取量の範囲
- ④ 放射性セシウムによる預託実効線量：全員不検出

なお、専門家の評価をいただき、「内部被曝量は確実に低下しており、健康に対する影響は極めて少ないと考えられる。」などの評価となっています。

1 調査方法

(1) 調査期間 平成 27 年 12 月 14 日から平成 28 年 2 月 22 日まで

(2) 調査対象者

市内に住所を有する 4 歳から 15 歳までの検査を希望する方。

(平成 11 年 4 月 2 日から平成 24 年 4 月 1 日生まれ)

対象数 12,018 人 申込総数 403 人 調査実施総数 337 人

(表 1) 調査実施内訳

地域	申込者数	4 歳	5 歳	6 歳	7 歳	8 歳	9 歳	10 歳	11 歳	12 歳	13 歳	14 歳	15 歳	総計	率
総計	403	106	74	41	31	15	13	22	7	12	8	5	3	337	83.6
一関	225	62	40	20	17	7	7	11	3	5	5	3	3	183	81.3
花泉	36	11	6	5	2	3	0	1	1	0	0	0	0	29	80.6
大東	29	8	4	4	2	2	2	3	1	1	0	0	0	27	93.1
千厩	48	4	10	5	3	3	4	5	0	4	0	1	0	39	81.3
東山	20	7	5	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	16	80
室根	3	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	100
川崎	18	9	3	1	2	0	0	0	1	0	1	0	0	17	94.4
藤沢	24	4	6	4	2	0	0	1	1	2	2	1	0	23	95.8

(3) 検査委託機関

株式会社 岩手県同位体研究所

株式会社 理研分析センター

(4) 検査方法 ゲルマニウム半導体検出器による尿中放射性物質検査

(5) 測定試料 尿 20 (連続して採取し指定の容器に蓄尿)

- (6) 検査核種 ヨウ素131、セシウム134、セシウム137、カリウム40
検出下限値 1.0Bq/ℓ未満
- (7) 検査結果 1日尿中放射性物質質量、これに基づく預託実効線量、スペクトルチャート
- (8) 算出・評価内容
- ア 採尿記録と検出結果をもとに1日に排出された尿中放射線物質を算出
 - イ アに基づく預託実効線量を推計・評価（放射線医学総合研究所のMONDAL3を利用）
- ※預託実効線量（mSv）とは、体内からの内部被ばく線量について成人で50年間、子どもで70歳までの生涯の累計線量。

2 調査結果

放射性ヨウ素は調査実施者全員不検出。以外の結果は別紙（グラフ）参照。

3 専門家の評価結果

岩手県放射線内部被ばく健康影響調査有識者会議委員である専門家に評価を依頼し、次のとおり評価結果をまとめた。

専門家 板井 一好先生（盛岡大学栄養科学部栄養科学科教授）

(1) 全体評価について

本年度の調査結果は337名の全ての対象者で検出下限値を下回っている。

H24年度（5.2%）、H25年度（0.8%）、と検出された割合は年度ごとに低下しており、H26とH27年度は0%。4年間連続して検査を実施他19名について、初年度は4名で検出されたが、H25年度以降は不検出。これらの結果から内部被爆量は確実に低下しており、健康に対する影響は極めて少ないと考えられる。

(2) 一関市（行政）に対する助言

ア 今後の調査の必要性について

H26年度及び本年度と2年連続で調査対象者全員が検出下限値を下回ったこと、事故後5年を経過していることを考慮すると、今後の調査は必要がないと考えられる。

イ 甲状腺超音波検査について

これまでの岩手県南部における放射性セシウムの汚染状況から推測すると、事故後の放射性ヨウ素による汚染レベルも比較的低いと考えられ、甲状腺超音波検査は必要ないと考えられる。

ウ その他の助言

事故後5年を経過して住民の不安もかなり解消されてきていると考えられるが、引き続き放射線についての正しい知識の提供と健康不安への丁寧な相談を実施し続けることが重要と考える。一方で、事故のことが風化しないような対策を講じることも重要であると考えられる。

(3) 市民に対する助言について

ア 内部被ばくの防止

市販されている食品の検査体制は整っており、安心して購入して食して問題はないが、今後も山菜等については、地域によってはセシウムを比較的多く含む可能性があるため、県や市町村が提供する情報を良く見ることが重要である。

イ 外部被ばくの防止

県や市町村で公開している線量レベルを確認して、健康のためにも屋外での積極的な運動が望まれる。

ウ その他の助言

放射線に関する正しい知識を身につけることも重要であるが、将来にわたって健康を維持増進するためには、食事や運動などの生活習慣に留意することも重要であると考えられる。